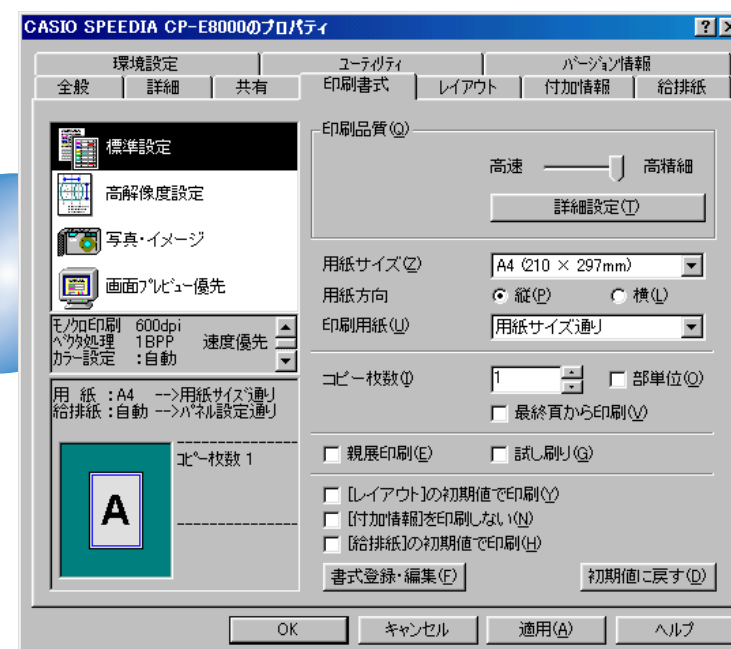
SPEEDIA

CP-E8000
プリンタドライバマニュアル

プリンタドライバの各種機能について記載されています。

T-609P-4E
MA0401-F　２００４年1月２０日　第６版発行

目　次

1. Windows プリンタドライバについて

ここでは、Windows 環境で CP-E8000 をご使用になる場合に必要となる各ドライバについて説明します。

■プリンタドライバとは

プリンタを制御するためのソフトウェアです。プリンタドライバは、アプリケーションソフトからの印刷命令をプリンタ固有の制御コマンドに変換してプリンタに送ります。
Windows 環境での印刷には、プリンタドライバが必須となります。

■プリンタに添付されている専用プリンタドライバを使用するメリット

- 各プリンタに最適な制御コマンドを高速に生成して印刷を行ないます。
- プリンタの能力を最大限に発揮できる多彩な機能が使えます。

■プリンタドライバを使用する際の注意事項

- プリンタドライバには多種多様の設定が有り、設定の違いにより印刷速度や印刷結果が異なる場合があります。
- アプリケーションや印刷内容により最適な設定は異なりますので、各設定の特徴をご理解の上、最適な設定でご使用ください。

■ Windows プリンタドライバは、各 Windows ごとにそれぞれ専用です。

<table>
<tr><td>Windows 95/98/Me 対応プリンタドライバ</td><td rowspan="3">プリンタ本体同梱</td></tr>
<tr><td>Windows NT4.0 対応プリンタドライバ</td></tr>
<tr><td>Windows 2000/XP 対応プリンタドライバ</td></tr>
</table>

※日本語環境専用です。その他の言語の Windows には対応しておりません。
（英語環境用には、別途英語環境専用のプリンタドライバを収録しています。プリンタフォルダの「Add printer」から、CD-ROM の \Drivers\English に収録されているプリンタドライバをインストールしてご利用ください。誠に勝手ながら、海外アプリケーション等のサポートおよびお問い合わせには、ご対応致しかねますのでご了承ください。）
※ WindowsNT4.0 は、x86 ベース（PC/AT および PC-98 シリーズ）にのみ対応しております。
※ ホームページ http://www.casio.co.jp/ppr/ にて随時、最新版の提供を行なっています。

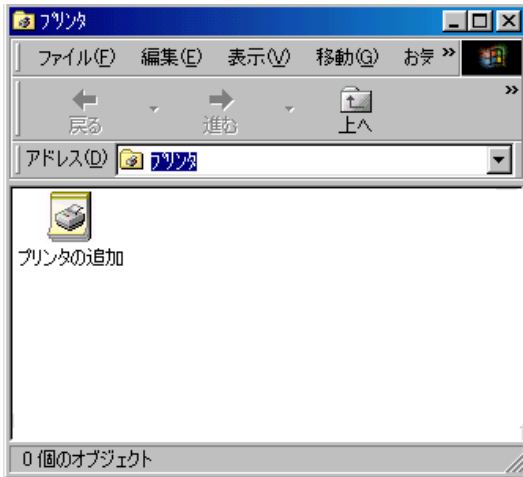
- **本マニュアルに記載されなかった最新の情報がプリンタドライバのヘルプ、もしくはテキストファイルに記載されることがあります。また、Windows 特有の制限・注意事項などに関するドキュメントファイルが Windows にも添付されています。本マニュアルと併せて、必ずご一読ください。**
- **Windows に関する操作や概要については、Windows に付属のマニュアル等をご覧ください。**
- **印刷の実行方法については、印刷を行なう各アプリケーションのマニュアル等を確認してください。**
- **本マニュアルに記載されているプリンタドライバの機能、操作方法、画面デザインは、機能拡張や改良のため、予告なく改変されることがあります。**
- **ご利用いただく環境によって、実際の画面表示と本文中の画面の図とで差異が見られる場合があります。あらかじめご了承ください。**
- **本書中に記載の社名、ソフトウェア名および商品名は、一般に各社の商標もしくは登録商標です。**

2. プリンタドライバのセットアップ

2.1 セットアップ

CP-E8000をWindows環境でご使用になるために、プリンタドライバをセットアップする必要があります。☞ セットアップガイド(3ページ)を参照して、CD-ROMからセットアップを行なってください。また、Windows標準の「プリンタの追加」で、プリンタドライバを個別にセットアップすることもできます。

ここではWindows標準の「プリンタの追加」で、CD-ROMからプリンタドライバをインストールする方法について説明します。

※ Windows NT 4.0 / Windows2000/XPでは、プリンタドライバのインストールおよび設定を行なうためには、それぞれのアクセス権が必要です。アクセス権については、パソコンの管理者に確認してください。

● プリンタドライバのインストール

まず、「スタート」メニューの「設定」から「プリンタ」を選択し、プリンタフォルダを開きます。
続いて、プリンタフォルダの「プリンタの追加」をダブルクリックすると、プリンタをインストールするためのウィザードの画面が表示されます。
ウィザードの画面メッセージに従って、プリンタドライバのインストールを行なってください。
ウィザードの内容は、OSによって異なります。

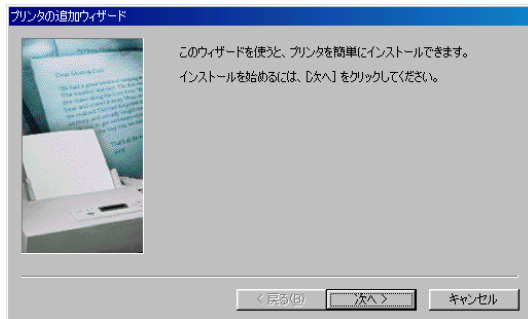
☞ 2.2 Windows95/98/Meのプリンタの追加ウィザード（6ページ）
☞ 2.3 Windows NT 4.0/Windows 2000/XPのプリンタの追加ウィザード（10ページ）

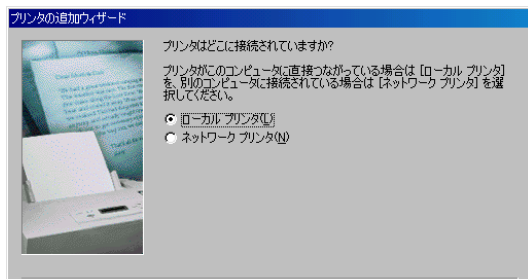
● プリンタドライバの設定

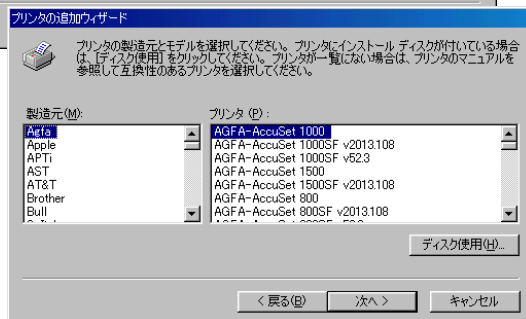
プリンタドライバのインストールが完了したら、プリンタドライバの設定を行なってください。
プリンタのアイコンを選択して、「ファイル」メニューの「プロパティ」をクリックすると、プリンタの設定ダイアログが表示されます。
Windows NT 4.0では「ファイル」メニューの「ドキュメントの既定値」を、Windows2000/XPでは「ファイル」メニューの「印刷設定」をクリックすると表示される設定項目についても設定を行ないます。

☞ 3. プリンタドライバの設定（15ページ）

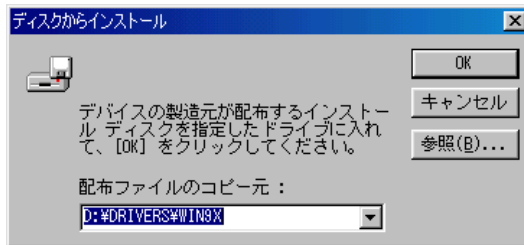
2.2 Windows95/98/Me のプリンタの追加ウィザード

※ 画面はWindows98 の画面です。その他のOS では、画面やメッセージが異なる部分がありますが、基本的な流れは同様です。

● プリンタの追加ウィザードの開始

プリンタの追加ウィザードでは、画面のメッセージに従って必要な項目を各画面で設定し、「次へ」ボタンをクリックして進行していきます。プリンタウィザードが表示されたら、「次へ」ボタンをクリックして、次の画面に進みます。

● 接続先

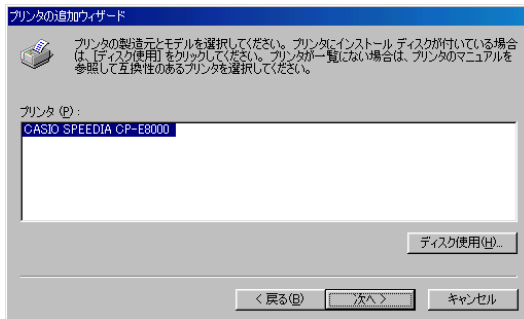
プリンタの接続形態を選択します。ここでは「ローカルプリンタ」を選択して、「次へ」ボタンをクリックしてください。

● プリンタの選択

プリンタ機種を選択します。

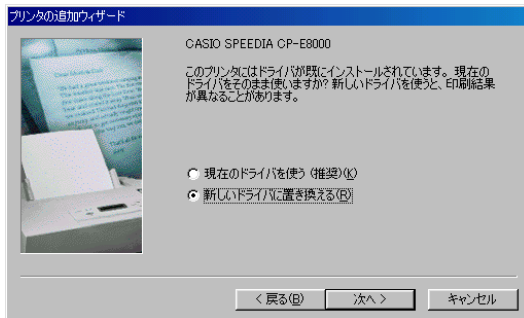
ここでは、「ディスク使用」ボタンをクリックして、新しいプリンタをインストールします。

● インストールディスクの指定

インストールを行なうディスクを指定します。

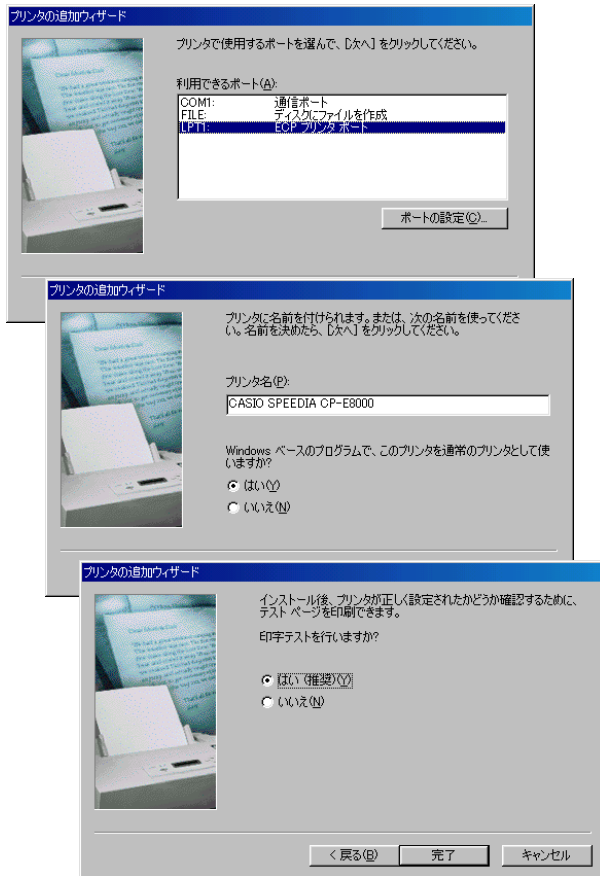
CD-ROMからインストールを行なう場合には、「D:\drivers\Win9x」(Dドライブが CD-ROMドライブの場合)を指定します。

フロッピーディスクなどのその他のディスクからインストールする場合には、各ディスクの適切なフォルダを指定してください。

● プリンタの選択

再びプリンタ機種の選択画面が表示されます。

「CASIO SPEEDIA CP-E8000」が選択されていることを確認して、「次へ」ボタンをクリックしてください。

● プリンタドライバの更新

既にパソコンに本プリンタ用のプリンタドライバがインストールされていた場合、図のようなダイアログボックスが表示されることがあります。

新しいプリンタドライバをインストールするために、必ず「新しいドライバに置き換える」を選択してください。

● プリンタポートの選択

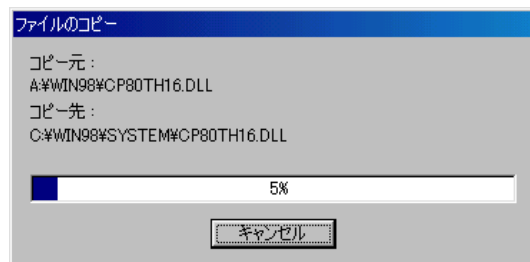
プリンタが接続されているポートを設定します。
プリンタケーブルで直接パソコンとプリンタを接続している場合には、LPT1を選択します。その他のポートに接続されている場合には、適切なポートを選択して、「次へ」ボタンをクリックしてください。

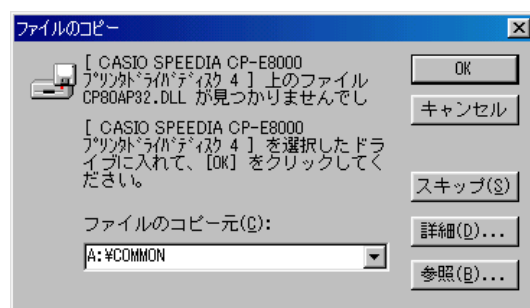
● プリンタ名の設定

プリンタに任意の名前をつけてください。
さらに、「通常のプリンタとして使いますか？」の部分では、「はい」を選択して、「次へ」ボタンをクリックしてください。

● テスト印刷

インストール後にプリンタ機能を確認するために、テストページを印刷することができます。テストページを印刷するには「はい」を選択して、「完了」ボタンをクリックしてください。

「完了」ボタンをクリックすると、インストールの準備は完了です。ファイルのインストールが開始されます。

● **ファイルのコピー**

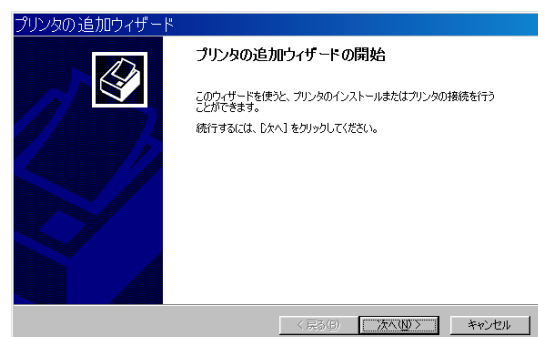
プリンタドライバに必要なファイルがインストールされます。
ファイルのコピーが終了すると、プリンタのアイコンが作成されます。アイコンが作成されたらインストールは完了です。

● **ディスクの交換**

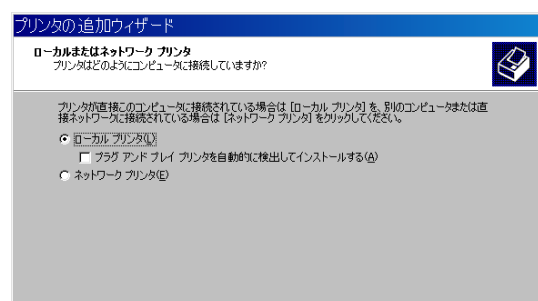
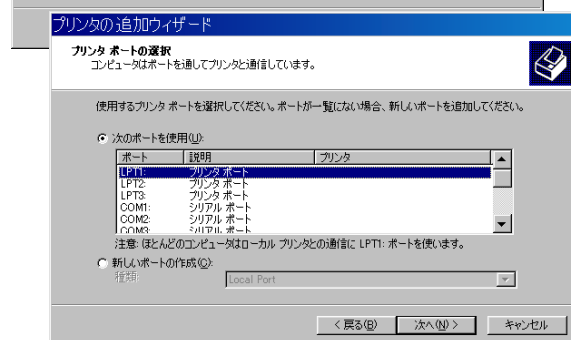
フロッピーディスクなどからのインストールでは、ファイルのインストール中に、ディスクの交換を指示するダイアログが表示されることがあります。
指定されたディスクを挿入して、「ＯＫ」ボタンをクリックしてください。

● **コピーガード印刷機能の追加**

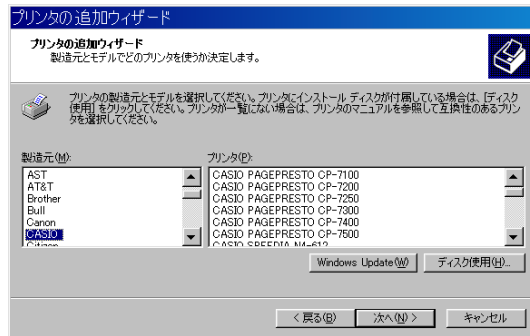
プリンタドライバにコピーガード印刷機能（☞ 17ページ）を追加するためには、Copy Guard system filesセットアップを実行します。
CD-ROMの¥drivers¥CGSystemからSetup.exeを実行してください。

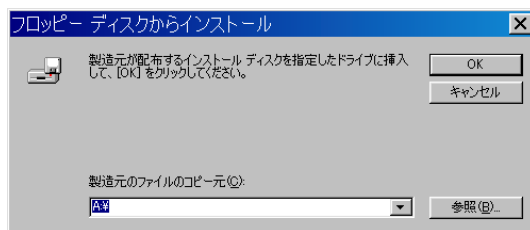
2.3 Windows NT 4.0/Windows2000/XP のプリンタの追加ウィザード

※ 画面は Windows 2000 のものです。Windows NT 4.0 および Windows XP では、画面やメッセージが異なる部分がありますが、基本的な流れは同様です。

● **プリンタの追加ウィザードの開始**

プリンタの追加ウィザードでは、画面のメッセージに従って必要な項目を各画面で設定し、「次へ」ボタンをクリックして進行していきます。
プリンタウィザードが表示されたら、「次へ」ボタンをクリックして、次の画面に進みます。

● **この画面では、プリンタの接続形態を選択します。**

ここでは「ローカル プリンタ」を選択して、「次へ」ボタンをクリックしてください。

● **プリンタポートの選択**

プリンタが接続されているポートを設定します。
プリンタケーブルで直接パソコンとプリンタを接続している場合には、LPT1を選択します。
その他のポートに接続されている場合には、適切なポートを選択して、「次へ」ボタンをクリックしてください。

● **プリンタの選択**

プリンタ機種を選択します。ここでは、「ディスク使用」ボタンをクリックして、新しいプリンタをインストールします。

● **インストールディスクの指定**

インストールを行なうディスクを指定します。CD-ROMからインストールを行なう場合には、以下のフォルダを指定してください。

Windows NT 4.0の場合：「D:¥drivers¥WinNT40」を指定します。

Windows2000/XPの場合：「D:¥drivers¥Win2000」を指定します。

（Dドライブがcd-ROMドライブの場合）

フロッピーディスクなどのその他のディスクからインストールする場合には、各ディスクの適切なフォルダを指定してください。

● **プリンタの選択**

再びプリンタ機種の選択画面が表示されます。

「CASIO SPEEDIA CP-E8000」が選択されていることを確認して、「次へ」ボタンをクリックしてください。

● プリンタドライバの更新

既にパソコンに本プリンタ用のプリンタドライバがインストールされていた場合、図のようなダイアログボックスが表示されることがあります。
新しいプリンタドライバをインストールするために、必ず「新しいドライバに置き換える」を選択してください。

● プリンタ名の設定

プリンタに任意の名前をつけて、通常のプリンタとして設定します。
さらに、「通常使うプリンタとして使いますか？」の部分では、「はい」を選択して、「次へ」ボタンをクリックしてください。

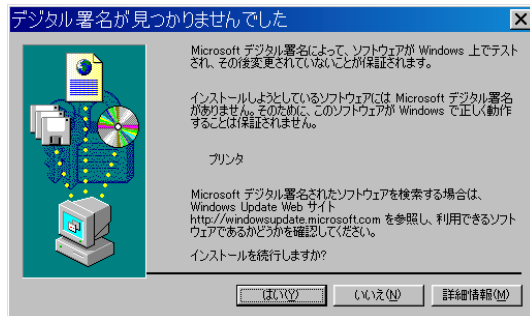
● プリンタ共有

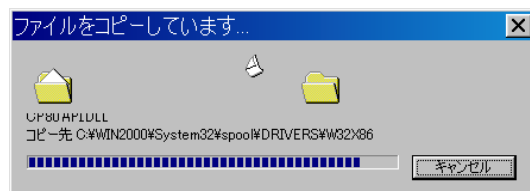
このプリンタを共有するかどうかの設定を行ないます。
共有するかどうか選択して、「次へ」ボタンをクリックしてください。

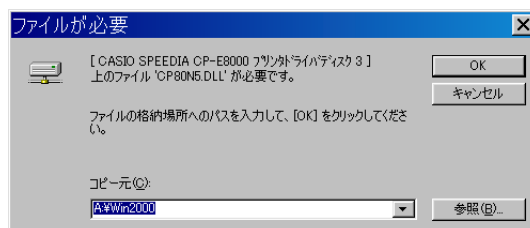
● **テスト印刷**

インストール後にプリンタ機能を確認するために、テストページを印刷することができます。テストページを印刷するには「はい」を選択して、「次へ」ボタンをクリックしてください。

● **「完了」ボタンをクリックすると、インストールの準備は完了です。**

ファイルのインストールが開始されます。

● **デジタル署名の確認**

Windows2000/XPでは、ファイルのインストール前に、図のダイアログボックスが表示されます。
CD-ROMに収録されているプリンタドライバには、Microsoftによるデジタル署名がないため、確認のために表示されます。
「はい」ボタンをクリックして、インストールを続行してください。

● **ファイルのコピー**

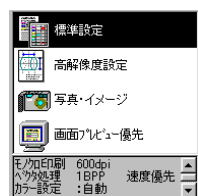
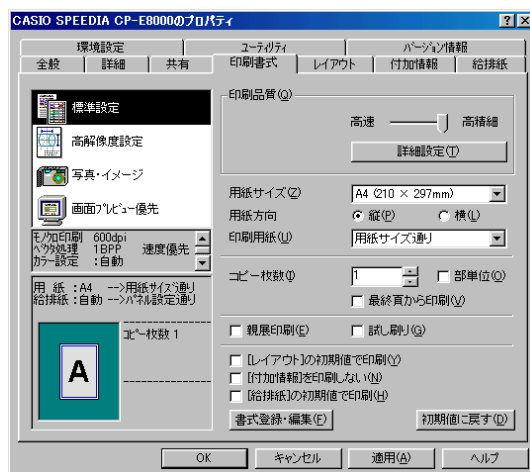
プリンタドライバに必要なファイルがインストールされます。
ファイルのコピーが終了すると、プリンタのアイコンが作成されます。
アイコンが作成されたらインストールは完了です。

● **ディスクの交換**

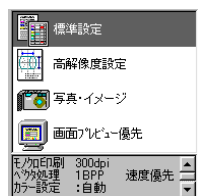
フロッピーディスクなどからのインストールでは、ファイルのインストール中に、ディスクの交換を指示するダイアログが表示されることがあります。
指定されたディスクを挿入して、「ＯＫ」ボタンをクリックしてください。

● **コピーガード印刷機能の追加**

プリンタドライバにコピーガード印刷機能（☞ 17ページ）を追加するためには、Copy Guard system filesセットアップを実行します。
CD-ROMの¥drivers¥CGSystemからSetup.exeを実行してください。

3. プリンタドライバの設定

3.1 印刷書式

<通常選択状態>

<詳細設定変更状態>

<スライドバー変更状態>

① **書式の選択**
一般によく使用される設定があらかじめ標準書式として用意されています。印刷の用途に応じて選択してください。
※ 書式を選択すると通常の選択状態となりますが、後述の印刷品質の設定を変更すると選択状態が変わり、現在の設定状態がわかるようになっています。
※「書式登録・編集」ボタンで任意の設定内容をユーザ書式として登録できます。

② **印刷品質 ― スライドバー(高速/高精細)**
標準書式にはそれぞれ「高速」と「高精細」の2つの設定があります。用途に応じてスライドバーの設定を変更してご利用ください。

③ **印刷品質 ― 詳細設定**
印刷品質の詳細を任意に設定する事ができます。詳細は、☞ 20ページをご覧ください。

④ **用紙サイズ/用紙方向/印刷用紙**
[レイアウト]の項をご覧ください。

⑤ **コピー枚数/部単位**
印刷する部数を設定します。部単位でソートして印刷する場合は「部単位」をチェックします。
※ プリンタにハードディスクを装着すると高速な部単位コピーが可能になります。詳細は☞ 23ページをご覧ください。

⑥ **最終頁から印刷**
通常は1ページ目から印刷を始めますが最終ページから印刷を行なう事ができます。

⑦ **親展印刷/試し刷り印刷**
親展印刷/試し刷り印刷を行なう場合に設定します。詳細は☞ 24ページ、25ページをご覧ください。

3.2 レイアウト

① 印刷位置調整
印刷位置の微調整が0.1mm単位で指定できます。

② 両面印刷
両面印刷を行なう場合に設定します。綴じる位置、綴じしろ等の設定ができます。
※ 両面印刷ユニット装着時のみ設定できます。

③ 用紙サイズ／用紙方向／印刷用紙
用紙サイズと用紙方向は、アプリケーション側で自動的に設定されますので通常は設定する必要はありません。ただし印刷用紙を指定して特定の大きさの用紙にちょうど良く拡大／縮小して印刷する場合などでは、正しく設定する必要があります。

④ 拡大／縮小
任意の大きさに拡大／縮小して印刷する事ができます。印刷用紙を変更すると用紙サイズに対する拡大／縮小率が計算されてここにセットされます。

⑤ マルチページ
数ページ分を1枚の用紙に印刷（合成印刷）したり、1ページを大きく拡大して数枚の用紙に分けて印刷（分割印刷）する機能を設定します。

⑥ ミラー印刷
全体を用紙の裏から見たように反転して印刷を行ないます。

3.3 付加情報

① ヘッダ・フッタ印刷

ヘッダ・フッタ印刷を指定します。ユーザ名やドキュメント名、日付や時刻、任意の文字列をヘッダ・フッタとして印刷する事ができます。

② スタンプ印刷

スタンプ印刷を行なう場合に設定します。任意の文字列やビットマップを指定できます。

③ フォームオーバーレイ

フォームオーバーレイ印刷を行なう場合に設定します。印刷データをフォームファイルとして保存する事もできます。

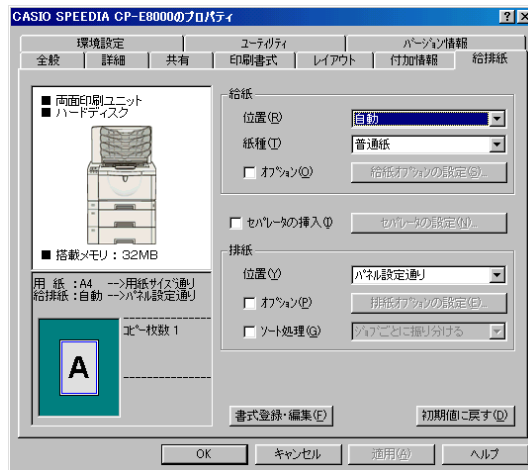
④ コピーガード印刷

コピーガード印刷を行なう場合に設定します。コピーガード印刷を行なうと、書類のコピー時に文字が浮かびあがる特殊なパターンが印刷され、特殊な用紙を用意することなく、複写牽制措置を施すことができます。

別売のCOPY GUARD TOOL(Ver.2以降)を導入すると、牽制文字やパターンの編集、印刷条件の指定などの機能が追加され、さらに多彩な複写牽制措置が可能になります。

⑤ プリンタ操作パネル表示文字列

印刷時プリンタの操作パネルに現在印刷中のドキュメント名やユーザ名、また任意の文字列を表示させる事ができます。

3.4 給排紙

① 給紙 － 位置

給紙する位置を指定します。通常は｢自動｣のままで使用します。

② 給紙 － 紙種

印刷する紙の種類を指定します。OHP用紙や封筒、ハガキおよび厚紙などの普通紙以外の用紙に印刷する場合は必ず指定します。

③ 給紙 － オプション

通常は特に設定する必要はありません。ページ毎に給紙位置を変更する設定の他、給紙関連のオプション設定があります。

④ セパレータの挿入

印刷の切れ目などの目印にセパレータを挿入する事ができます。特定の給紙装置に色紙を用意して印刷の切れ目にセパレータ用紙を挿入すれば仕分けが容易になります。またOHP用紙の印刷時に普通紙をOHP用紙とOHP用紙の間に挟み込む事ができます。

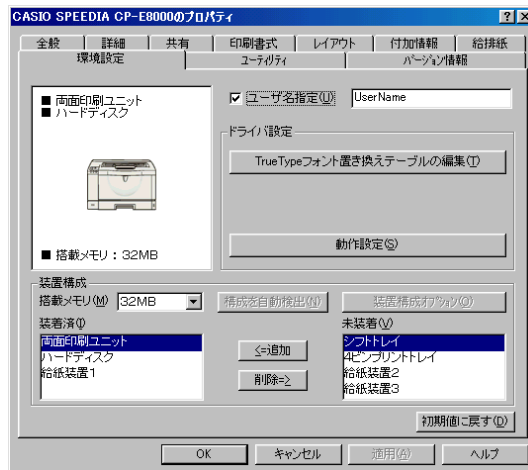
⑤ 排紙 － 位置

紙を排出する位置を指定します。

⑥ 排紙 － オプション

通常は特に設定する必要はありません。排紙関連のオプション設定があります。

※ このタブシートでは、プリンタの装置構成が確認できます。

3.5 環境設定

※ 環境設定タブは、アプリケーションから開いたプリンタ設定では表示されません。またWindowsNT4.0の「ドキュメントの既定値」、Windows2000/XPの「印刷設定」でも表示されません。プリンタフォルダのメニューから「プロパティ」を選択してプリンタ設定を開く必要があります。

① ユーザ名指定

ヘッダ・フッタ印刷、プリンタ操作パネル表示文字列等で使用するユーザ名を指定します。ここを設定しない場合は、Windowsのログイン名が使用されます。

② ドライバ設定

通常特に設定する必要はありません。

③ 装置構成 － 搭載メモリ

プリンタに装着しているメモリ容量を設定します。

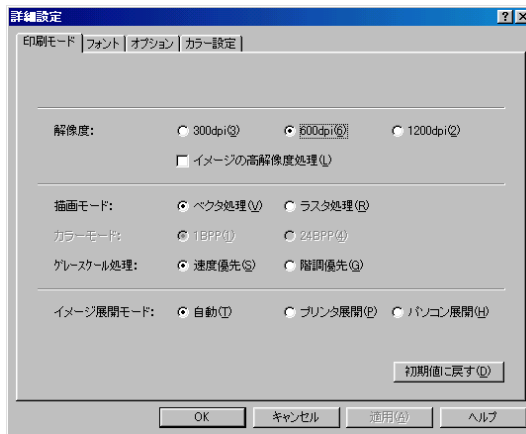
④ 装置構成 － 構成を自動検出

プリンタをローカル(LPT1)に接続している場合に、このボタンをクリックするとプリンタ装置構成の設定が自動的に適切な内容に変更されます。(利用できない場合はボタンがグレー表示になります。この場合には、接続されているプリンタの構成に合わせて、装置構成を設定してください。)

⑤ 装置構成 － 追加／削除

装置構成をマニュアルで設定します。追加／削除する装置を選んでボタンをクリックします。選択した装置がリストを移動します。(プリンタ構成の図も変更されます。)

※ 装置構成を正しく設定しないとプリンタドライバの機能が制限されたり、正しい印刷結果が得られなくなる場合があります。

3.6 印刷書式 ― 詳細設定 ― 印刷モード

① 解像度

プリンタ解像度を指定します。通常は600dpiから特に変更する必要はありません。印刷速度を重視する場合は300dpiに、滑らかな階調を重視したい場合には、1200dpiに設定します。1200dpiに設定すると、ラスタ処理設定時や精細なグラフィックを含むデータの場合、印刷に時間がかかることがあります。

② 描画モード

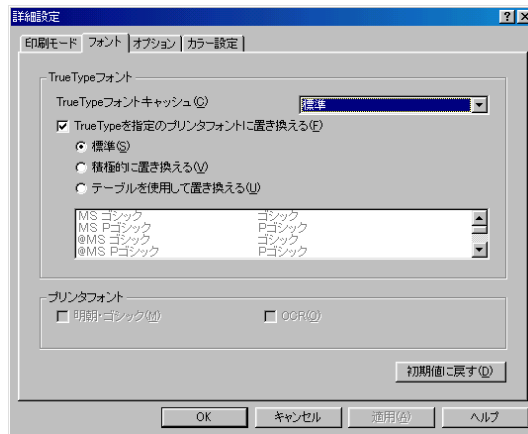
ドライバの描画方法を設定します。一般にラスタ処理よりベクタ処理の方が印刷速度は速くなります。ラスタ処理では、印刷データをパソコン側でイメージに展開してプリンタに送ります。スプールデータは多くなりますが画面に忠実な印刷が行われます。

③ グレースケール処理

モノクロ印刷時のグレースケール処理方法を指定します。「速度優先」に設定すると正しい階調のグラデーションが得られない場合がありますが、印刷速度は速くなります。

④ イメージ展開モード

画像イメージの展開をプリンタ側で行なうかパソコン側で行なうかを指定します。通常は「自動」のまま変更する必要はありません。

3.7 印刷書式 － 詳細設定 － フォント

① **フォントの置き換え － TrueTypeフォントキャッシュ**
一連の印刷の中で、一度使用したTrueTypeフォントをプリンタ内のメモリに登録保管し再利用する事で同じ文字を複数回使用した際の印刷速度を向上させ、またスプールサイズを削減させます。
通常は、「標準」のままで変更する必要はありません。
※ベクタ処理時のみ有効な機能です。

② **フォントの置き換え － TrueTypeを指定のプリンタフォントに置き換える**
TrueTypeフォントをプリンタフォントに置き換えて印刷する事でプリンタへのデータ転送量（スプールサイズ）を削減し高速な印刷を実現します。
「標準」では、［ＭＳ明朝・ゴシック］［ＭＳＰ明朝・ゴシック］をプリンタフォントに置き換えます。
※ベクタ処理時のみ有効な機能です。

③ **プリンタフォント － 明朝・ゴシック**
ラスタ処理時、プリンタフォントを使用する場合にチェックします。通常は、使用しない方が品質的にも速度的にも良い結果が得られます。

④ **プリンタフォント － ＯＣＲ**
プリンタに内蔵されているＯＣＲフォントを使用する場合にチェックします。
３００dpi時のみ設定可能です。

3.8 印刷書式 － 詳細設定 － オプション

① **ドライバオプション － イメージ圧縮転送／コマンド圧縮転送／JPEGスルー／EMFスプール**
通常は初期設定のまま変更する必要はありません。

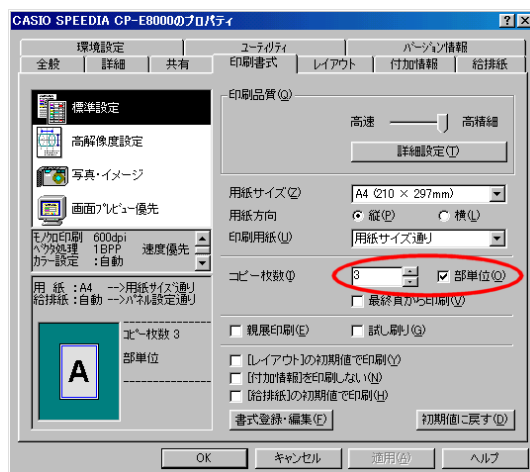
② **ドライバオプション － 極細線補正／ブラシパターン補正／半透明補正**
細すぎる線(600dpiの1dot線)や細かすぎるパターンなどの拡大補正を行ないます。
通常は初期設定のまま変更する必要はありません。

③ **ドライバオプション － 白紙節約**
印刷の結果、用紙全面に何も印刷されないような用紙については、排紙を行なわないようにします。

④ **ドライバオプション － Penスタイル補正**
Windowsでは通常1dotより太い線はすべて実線に置き換えて描画します。その置き換えを行なうかどうかを指定します。通常は、「する」を設定します。

⑤ **プリンタオプション － スムージング／トナーセーブ／JAMリカバリ**
プリンタ機能を設定します。
※ 各機能の詳細については、操作のパネルの設定 ☞ リファレンスマニュアル(24ページ)をご参照ください。

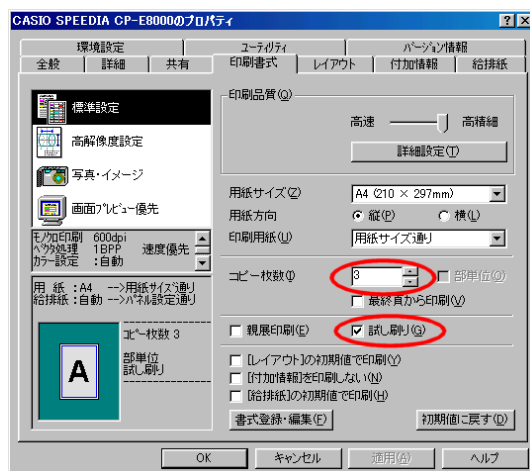
4. こんなことができます。＜印刷目的別ドライバ設定方法＞

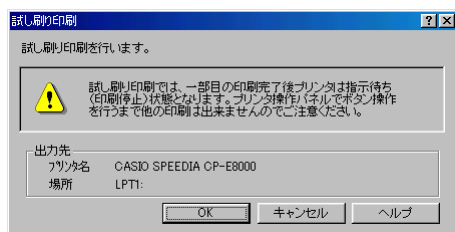
4.1 複数部数の印刷を、部単位ごとにソートして印刷する。（部単位コピー印刷）

● アプリケーション側の「部単位」「丁合」等の設定はオフにしてください。
● 印刷部数（コピー枚数）はアプリケーション側で設定してください。

● 部単位ごとにソートしてコピー印刷する場合は、［印刷書式］の「部単位」にチェックをして印刷します。

● ハードディスクまたは、64MB 以上のメモリをプリンタに増設すると、パソコンのデータ転送時間が短縮されるとともに、プリンタの印刷速度がより高速になります。

※ 部単位コピー印刷は、プリンタフォルダから開く「環境設定」－「動作設定」の設定内容で動作が異なってきますので、必要に応じて設定します。設定を変更した場合、アプリケーション側の設定方法も変ってきますので注意が必要です。
（詳細は、プリンタドライバのヘルプをご覧ください。）

4.2 複数部数の印刷時、まず 1 部印刷し確認してから残りを印刷する。（試し刷り印刷）

● プリンタのハードディスクまたは、64MB 以上のメモリ増設が必要です。
● 印刷部数（コピー枚数）はアプリケーション側で設定してください。
● プリンタが指示待ち（印刷停止）状態のままだと、他の印刷はできません。
一部目の印刷の後に必ずプリンタ操作パネルのボタン操作を行なってください。

● 試し刷り印刷を行なう場合は、[印刷書式]の「試し刷り」にチェックをして印刷します。

<印刷開始時に表示されるダイアログ>

● 印刷開始直後、左図のようなダイアログが表示されます。内容を確認して OK であったら［OK］ボタンをクリックして印刷を続行します。［キャンセル］をクリックすると印刷を中止します。

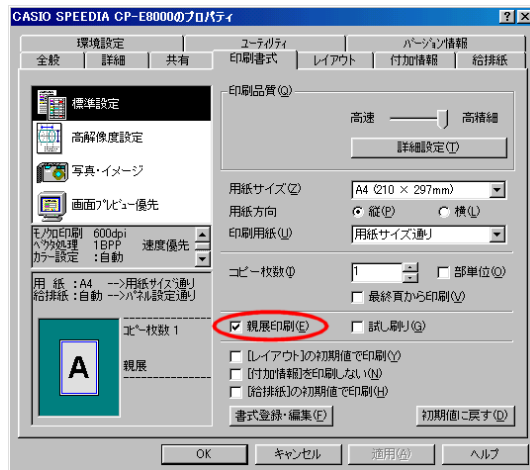
```
ブ゛タンイ　　　ブ゛スウ＊＊＊＊
ジ゛ド゛ウ　Ａ４　　　イチブ゛メ
```

● プリンタの操作パネルには、左図のような表示が行なわれ一部目が印刷されます。（＊＊＊＊には、指定したコピー枚数（印刷部数）が入ります。）

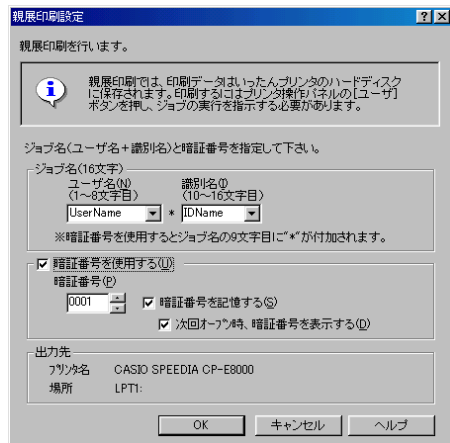
```
タメシスリ　ノコリ　＊＊＊＊ブ゛
　インサツ　／　キャンセル
```

● 一部目の印刷が終了すると、左図のような表示が行なわれブザーが鳴ります。
※ プリンタは指示待ち（印刷停止）状態です。次の操作を行なうまで他の印刷はできません。

● 一部目の印刷結果を確認し、残りの部数を印刷する場合はプリンタ操作パネルの［実行］ボタンを押します。（［取消］ボタンを押すと残り部数は印刷しません。）

4.3 他の人に見られないように印刷する。（親展印刷）

● 親展印刷では､印刷データはいったんプリンタのハードディスクに保存されます。親展印刷を行なうためには､オプションのハードディスクが必要です。

● ハードディスクに保存されたデータを印刷するには､プリンタ操作パネルでボタン操作が必要です。

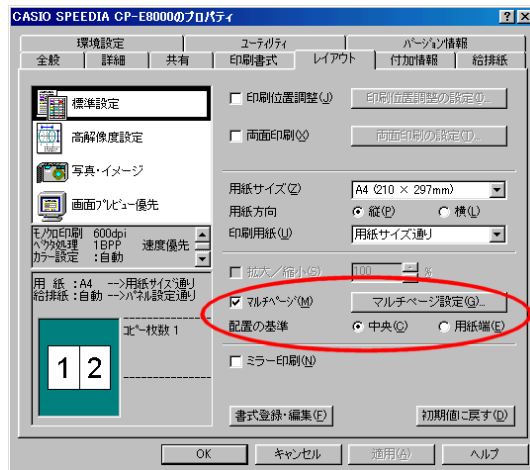
● 親展印刷を行なう場合は、［印刷書式］の「親展印刷」にチェックをして印刷します。

<印刷開始時に表示されるダイアログ>

● 印刷開始直後、左図のようなダイアログが表示されます。ユーザ名と識別名（これがプリンタの操作パネルで選択する印刷ジョブ名となります。）を入力します。必要に応じて暗証番号を入力して［OK］ボタンをクリックして印刷を続行します。［キャンセル］をクリックすると印刷を中止します。

シンテン	＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
ジ゛ド゛ウ	A４　　　ホゾ゛ン

● プリンタの操作パネルには､左図のような表示が行なわれプリンタのハードディスクに印刷データが保存されます。（＊＊＊＊＊＊には､設定によって様々な情報が入ります。）

● 印刷するには、プリンタ操作パネルの［ユーザ］ボタンを押し、ジョブの実行を指示する必要があります。操作パネルの操作について詳しくは､☞ リファレンスマニュアル（7 ページ）をご覧ください。

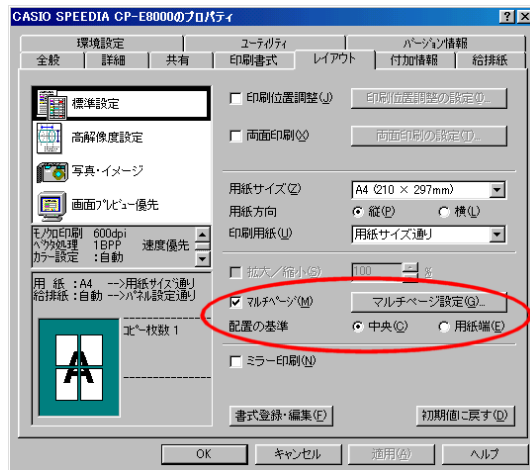
4.4 複数のページを 1 枚の用紙にまとめて印刷する。（マルチページ「合成」印刷）

● マルチページ「合成」の機能を使用すると、複数ページを 1 枚の用紙にまとめて印刷することができます。

● マルチページの機能を使うには、［レイアウト］の「マルチページ」にチェックをして印刷します。マルチページの細かな設定は、「マルチページ設定」ボタンをクリックすると表示される「マルチページ設定」ダイアログで行ないます。

●「マルチページ設定」ダイアログで、まずマルチページの種類を選択します。
● ここでは、複数ページ 1 枚の用紙にまとめるため「合成」を選びます。
● 良く使われる設定は､あらかじめ用意されているアイコンを選ぶだけで設定できます。

● 自由指定のボタンをクリックすることで､任意の設定の｢合成｣を行なうことができます。

● 9 ページを縮小して 1 枚の用紙に入れたり、印刷用紙に長尺紙を使い、A4 の原稿を実寸のまま 4 ページ分ならべて 1 枚の用紙印刷することもできます。

4.5 模造紙大まで拡大して印刷する。（マルチページ「分割」印刷）

● マルチページ「分割」の機能を使用すると、１ページを模造紙大の大きさまで拡大して印刷することができます。模造紙大の用紙には印刷できないので、複数の用紙に分けて印刷し、それを後で張り合わせることで実現します。

● マルチページの機能を使うには、［レイアウト］の「マルチページ」にチェックをして印刷します。マルチページの細かな設定は、「マルチページ設定」ボタンをクリックすると表示される「マルチページ設定」ダイアログで行ないます。

●「マルチページ設定」ダイアログで、まずマルチページの種類を選択します。

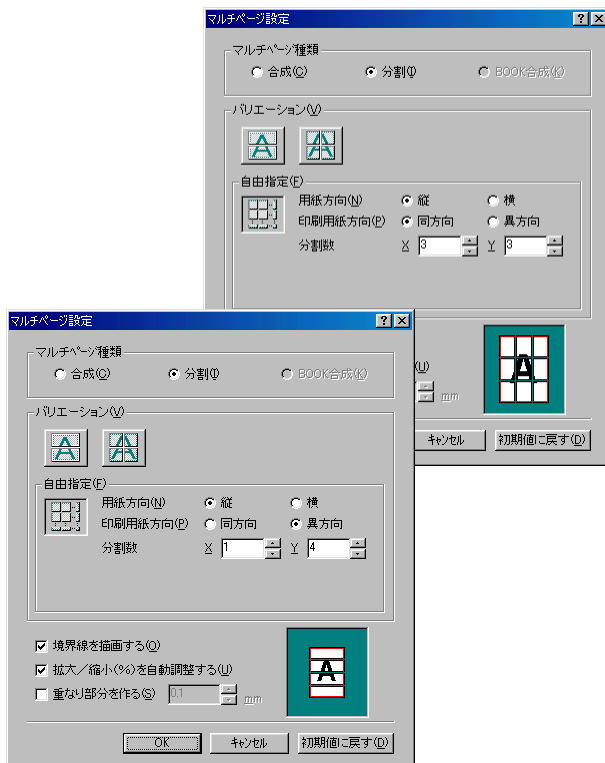
● ここでは、１ページを複数の用紙に分けて印刷する「分割」を選びます。

● よく使われる設定は、あらかじめ用意されているアイコンを選ぶだけで設定できます。

● 自由指定のボタンをクリックすることで、任意の設定の「分割」を行なうことができます。

● 用紙９枚を使用して、元の９倍もの大きさに拡大することも、印刷用紙に長尺紙を使い、模造紙大の大きさに印刷することもできます。

● 長尺紙（297mm × 900mm）を横向きに置き、縦に４枚並べて貼り合わせることで、模造紙（790mm × 1083mm）を超える大きさを実現します。

※ ある一定の拡大率を超えるとWindows側で処理しきれなくなり、拡大部分の劣化が目立つようになります。

4.6 文書にデータを追加して印刷する。（付加情報印刷）

［付加情報］の機能を使用して、文書データにない情報を付加して印刷することができます。

● ヘッダ・フッタ印刷

「ユーザ名」や「ドキュメント名」などの情報を、ヘッダやフッタのように各ページに印刷することができます。

● スタンプ印刷

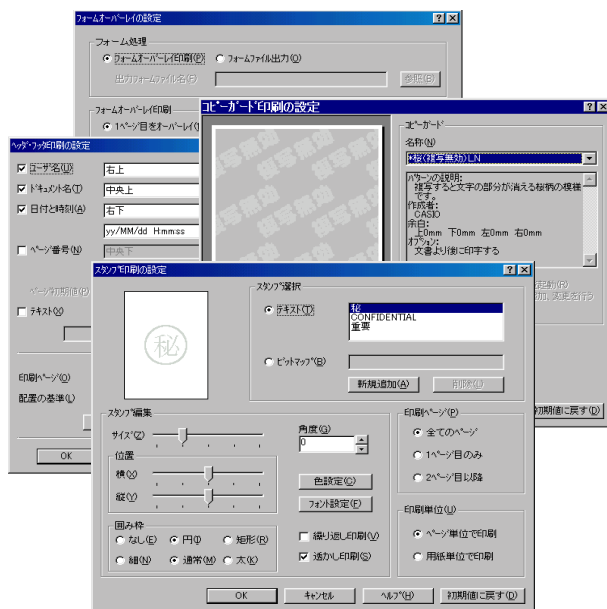
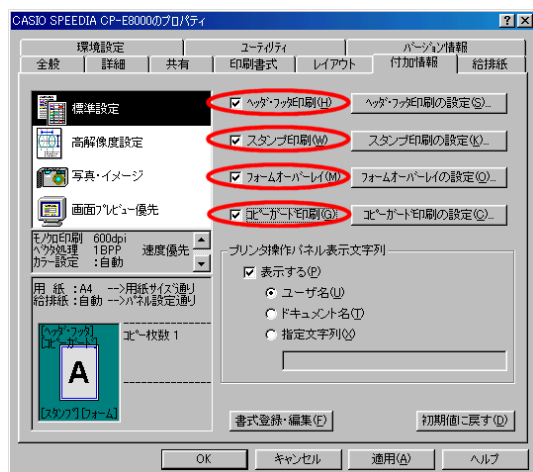
文字や画像を、スタンプや透かしのように各ページに印刷することができます。

● フォームオーバーレイ

ある文書の１ページを、他の文書に重ね合わせて印刷することや、「FORMG III Ver.2/Ver.3」で作成したフォームファイルをオーバーレイ印刷することができます。

● コピーガード印刷

機密文書や証明書等の印刷書類では、書類の偽造、不正利用、流出を抑止する手段として、書類のコピーに、複製であることを意味する文字が浮かびあがる特殊な用紙が使用されることがあります。
コピーガード印刷を行なうと、書類のコピー時に文字が浮かびあがる特殊なパターンが印刷され、特殊な用紙を用意することなく、複写牽制措置を施すことができます。
別売のCOPY GUARD TOOL（Ver.2 以降）を導入すると、牽制文字やパターンの編集、印刷条件の指定などの機能が追加され、さらに多彩な複写牽制措置が可能になります。

※ 各機能の設定に関する詳細は、プリンタドライバのヘルプを参照してください。

4.7 オプション装置を使って、印刷文書の仕分けを行なう。

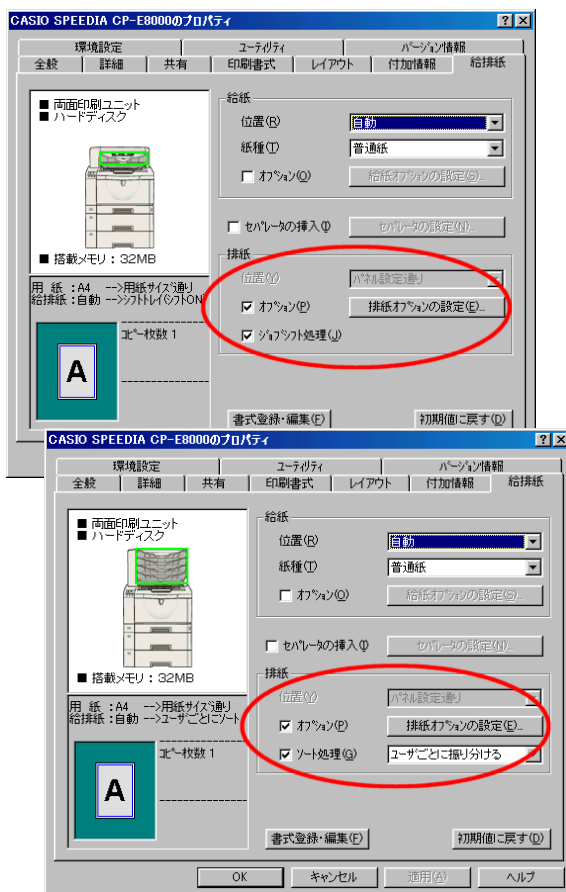
オプションのシフトトレイまたは４ビンプリントトレイを装着すると、以下のような印刷文書の仕分けを行なうことができます。

●文書ごとの仕分け

文書単位で自動的に仕分けができます。
シフトトレイでは、１部ごとに用紙をずらして印刷されます。
４ビンプリントトレイでは、１部ごとにトレイを変更して印刷します。

●ユーザごとの仕分け（メールボックスと同報）

４ビンプリントトレイ装着時には、プリンタをご利用いただくお客様ごとに、各トレイに「ユーザ名」を割り当てて、各トレイをメールボックスのように使用することができます。また、ユーザ名を割り当てたトレイすべてに対して印刷する「同報」印刷を行なうこともできます。

※装着するオプションによって、プリンタドライバで設定する項目や、プリンタの排紙動作が異なります。
設定に関する詳細は、プリンタドライバのヘルプを参照してください。

カシオ計算機株式会社
システムソリューション営業統轄部　ページプリンタ企画室

〒151-8543　東京都渋谷区本町1－6－2
電話 03-5334-4552

東京地区	電話 03-5334-4550
西日本地区	電話 06-6243-2100
中部地区	電話 052-324-2135
カシオ情報機器　北海道地区	電話 011-221-7891
カシオ情報機器　東北地区	電話 022-718-0650
カシオ情報機器　中国地区	電話 082-239-1500
カシオ情報機器　四国地区	電話 087-862-8822
カシオ情報機器　九州地区	電話 092-475-3939
テクニカル・インフォメーション・センター	電話 03-5334-4557

インターネット・ホームページ　http://www.casio.co.jp/ppr/

CP-E8000

プリンタドライバマニュアル

2004年1月20日　第6版発行

カシオ計算機株式会社
カシオ電子工業株式会社

＊ 本装置は、日本国内において使用することを目的に製造されています。諸外国では電源仕様などが異なるため使用できません。
また、安全法規制（電波規制や材料規制など）は国によって異なります。本装置および関連消耗品などをこれらの規制に違反して諸外国に持ち込むと罰則が課されることがあります。

当社は、国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。